

平尾台・広谷湿原 ラムサール登録を



東筑紫学園高理科部の生徒が広谷湿原の重要性を訴えた
実行委員会の発足会

北九州で実行委発足会

北九州市や対田町などにかかるカルスト台地、平尾台の「広谷湿原」のラムサール条約登録を目指す実行委員会が、小倉北区の山田東筑紫学園高の生徒呼び掛け

大学や企業も応援

緑地で発足会を開いた。実行委の中心は、湿原の調査と保全を取り組む東筑紫学園高(同区)の理科部で今後活動の幅をさらに広げ、協力を呼び掛ける。

理科部によると、カルスト台地では、降った雨はすぐ鉢状の地形「ドリース」から浸透し、地下に洞窟に流入。そのため地表面に水は存在しないが通説で、湿原が

できるのは珍しいという。2011年は国の重要湿地に登録されて

いる。理科部は1994年から湿原の

測量を開始。面積が年々縮小して

いることを発見し、食い止めるた

めの保全活動にも着手した。湿原

周辺の石積みに小石を詰めるなど

の努力を重ねた結果、一時、約4

50平方㍍まで落ち込んだ面積は

今年、約920平方㍍に回復した。

2013年からは、国際的に貴重

な湿原を保全するラムサール条約

登録に向けた活動を始めた。

環境省は登録条件に「関係自治

体の賛意」を挙げているため、理

科部は地域への情報発信にも取り

組む。行政への働きかけとして8

月に北九州市議会に陳情、その後、

(諒訪部真)

一部の市議が現地視察に訪れた 実行委員会の発足会

一部の市議が現地視察に訪れた。実行委員会の発足会

地元経済界に対しても働き掛け、

実行委はスター・フライヤー・シャ

ポン玉石けん、北九州商工会議所

などから協賛や後援も取り付け

た。

10月21日についた発足会には、

実行委のほか地元住民や卒業生な

ど約100人が出席。会長の原口昭

教授は「登録が実現するよう研究

面で手伝っていただきたい」とあいさ

つした。副会長は、カルスト地形

に詳しい市立いのちのたび博物館

の名倉学芸員、藤井厚志氏が務め

る。平尾台を撮影続けるアマチ

ュア写真家の本田茂さんによるス

ライドショー、理科部員による

研究結果の発表もあった。

理科部は「条約の登録で湿原を

より多くの人に知つてもうれ、保

全活動をさらに進めることができ

る」と登録の意義を訴えている。